

<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 標準化自体が目的となっはいけない。標準化の目的(＝事業化・市場獲得)の深掘りが大事</li> <li>✓ 欧、米、中の標準戦略は、目的がしっかり垣間見える</li> <li>✓ 我が国にとっての標準戦略の目的は、市場形成・市場拡大だとみている</li> <li>✓ 国際標準化を産業政策の非常に重要なツールと位置づけ、官民学にその認識を強めるべき</li> <li>✓ 客観的な事業のKPIを定め、その執行組織の結果を、政策を担当する組織の要件に照らしてフィードバックするという、客観性・透明性を持たせることが必要</li> <li>✓ うまくいかなかった分析結果を「成果」とすべき</li> </ul>	<p>国家戦略の目的等</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 出来ている領域を伸ばす話とセットで、出来ていない領域をサポートするなど、分野に応じた話が必要</li> <li>✓ 事業化の過程に入ったときにリードできるよう、基礎研究の段階からのルールメイキングが重要</li> <li>✓ 競争力を確保するための標準化に加え、システムアーキテクチャやデータの標準化も重要</li> </ul>	<p>領域</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 特にこの10年で顕在化してきたが、人材不足が決定的</li> <li>✓ 現状の標準人材は、例えるなら職人さんみたいな方が多い。個人もしくは特定の分野では優れた方が多いが、大きな枠組みの中で動いていないのではないか</li> <li>✓ 日本の方も国際標準の場に多くでているが情報収集にとどまっいて、世界のソフトロー、世の中を動かすというところまでに対応できていなかったのではないか</li> </ul>	<p>標準人材</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 標準化は市場を広げ、価値を拡大する方法論であることを、まず産業界の経営者等が認識を高めるべき</li> <li>✓ 企業として関心は薄い分野であっても、例えばカーボンニュートラルなど、実際には大きな影響を受ける可能性がある。実態を踏まえて啓蒙していく必要がある</li> </ul>	<p>意識改革</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 体制の問題として、例えば国内の標準化団体がプラットフォームになり、ステークホルダーと連携するような舞台づくり、そういう機能が十分ではないのではないか</li> <li>✓ 一民間企業だけでは非常に難しく、国全体としてエコシステムを作っていく必要がある</li> </ul>	<p>エコシステム</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 現地で新しい価値を共創し、現地でコンテキスト化することが重要ではないか</li> <li>✓ 標準化は自ら動いて初めて価値最大化が図れるが、フォロワーになったら我々の力を発揮するところが限られる</li> <li>✓ 人間社会への貢献戦略・シナリオこそがパートナーを組む上での重要な要因となる</li> </ul>	<p>パートナー</p>

- ✓ 全体を俯瞰し、我々が進むべき価値領域と共に影響を与える周辺領域を把握し、時間軸を考慮に入れながら、どのような戦略を持つべきかを明確にすることが必要。
- ✓ 標準化の目的を深掘りする・明確にすることが重要。日本の国際競争力・産業競争力の確保が目的であって、標準化はツール。
- ✓ 国内外へのメッセージ発信が重要。国内へは「脱・競争戦略」「社会課題解決をビジネスにしていけるための標準化」、海外へは需要づくりを日本がリードしていくこと、をメッセージングするのが良いのではないかな。
- ✓ 社会や産業に対するビジョンの下に戦略および標準化をつくるべき。
- ✓ 今後、環境課題等の解決において、ものづくりや産業の連携のやり方が変わっていく中で、業界トータルとしてどういう産業構造にしていくのかを考えながら、必要な標準化・戦略を眺める必要があるのではないかな。
- ✓ ビジョン・ゴールを明確にした上で、企業や支援機関の活動が効果的にモニターできる、ビジネスと関連付けた有効な指標の設定を期待している。
- ✓ ビジョンの策定の際に、業界・分野別の軸も入れるのもあるのではないかな。
- ✓ 国家戦略の策定後の開示は十分配慮が必要ではないかな。
- ✓ 国家戦略の認知度の向上が必要。
- ✓ 国家戦略策定後、振り返りのプロセスを作り、分析を行うことで次につなげることが重要。
- ✓ PDCAを回している暇はない。スピード感を持って戦略を実行する必要がある。
- ✓ スピード感を持って民間中心に動いていく部分と、管制高地の役割を果たすコンセプト規格等を日本がリードしていく部分の、両面の戦略が非常に重要。

国家戦略の目的等

- ✓ グローバルマーケットの獲得が見込める、研究開発とサプライチェーンのつながりの強みをふまえた領域設定が必要。
- ✓ 様々な業界およびインフラをまたいだ、種々のビジネス連携のモデルやマーケットプレイスを共通的に扱っていく標準化はあるのではないかな。
- ✓ パンデミックのような場面において、医療は安全保障という観点で重要な部分がある。また、日本の高齢化社会は、欧米中の先を行っている。医療データの活用においては、以下の課題を総合的に考えていく必要があるのではないかな。課題①: 有効性を示すデータの質に関する標準化に向けた動きが日本は遅い。課題②: 長寿命に関する情報を含むデータの収集に役立つ標準化が必要。課題③: 個人情報保護の観点から、セキュリティ対策の整備が必要。
- ✓ デジタル領域においては、技術でスペックを作るだけでなく、データそのものをどうガバナンスしていくか、という部分にまで標準化が入ってきており、議論が必要ではないかな。
- ✓ ファイナンスの領域においては、ほぼリスクに関する標準化の強化が進んでいる。
- ✓ 経済安全保障の観点で分野を分類していくことは必要。

領域

<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 人材育成は企業に任せるのではなく、メタ戦略として産業政策としてやるのが良いのではないか。</li><li>✓ どういう人材が必要かをクリアにしておかなくてはいけない。</li><li>✓ 標準化ではなく事業を起点として、標準化を事業に競争力を持たせるためのものにするためには、事業開発人材の参画が必須。</li><li>✓ 人材を蓄積するために、人材プールを各省庁で持つなど国としての枠組み・仕組みが必要ではないか。</li><li>✓ 職人的に個々でやるだけでなく、全体俯瞰しファシリテートできる人、リーダーシップを取れる人、マネジメント人材が確実に必要。</li></ul>	標準人材
<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 国際的な産業政策としての標準化に関するこれまでの取組において、分野による温度差が大きい。今後、日本がより付加価値を国際的に提示していくべき、食やライフスタイルに関する分野は国際競争においてやや迫力が不足しているのではないか。</li><li>✓ 「エコシステム支援機関の発展」の後に「ビジネスの意識を変えていく」。</li></ul>	意識改革
<ul style="list-style-type: none"><li>✓ どうやって大学に意識づけをし、一緒にエコシステムを作っていくかは、国家戦略の大きなターゲットになる。研究力強化と国家戦略は非常に連動することも強調していきたい。</li><li>✓ 個別最適ではなく、横断的に連携していくエコシステムを作らなければならない。</li><li>✓ 人材育成と支援機関の強化が両輪で検討されるのは非常に良い。</li><li>✓ 支援機関の強化においては、支援機関・各関連機関が課題解決に向けて自主的・継続的に取り組むことが必要。また、規模感だけでなく、能力・責任・役割という点からも考えるべき。</li></ul>	エコシステム
<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 日本だけではリードできないイノベーションに関して外と組むための求心力としての国家戦略だと思っている。</li><li>✓ 好事例を分野横断的に共有・移転することもできるのではないか。</li><li>✓ 全体的な司令塔の機能が必要ではないか。</li><li>✓ 予算配分に付随して、政府各省庁に対する強い働きかけが可能になるような基盤的な規則等が必要ではないか。</li><li>✓ タスク型ダイバーシティを意識して、意味のある活動につながる連携の「場」を設計していくことも重要。</li><li>✓ 各省における標準化活動に対する温度差が非常に大きく、また省庁間での情報共有が難しいと感じている。各省庁に窓口を設ける等の対策の必要性を強く感じている。</li><li>✓ 官民連携は非常に重要ではあるが、最先端分野では情報の機密性の点から難しい面もある。戦略が必要ではないか。</li><li>✓ 国際標準化の前のルール形成の状況を醸成するために、様々な国際機関における議論も非常に重要。</li></ul>	パートナー・連携